

# 南アルプス農鳥岳

2006.8.17～8.21

2名

(8/17)

京都—静岡—身延—奈良田温泉（泊）

白幡史郎の写真館見学・滑らかで気持ちの良い温泉でした。ただ、宿屋は食事・部屋とともに良くなかった。

(8/18)

奈良田 — 第三堰堤（7：00） — 大門沢小屋（10：33）（泊）

宿屋の主人に自動車でオイノ沢を過ぎた第三堰堤まで送ってもらい、そこから、歩き始める。

沢に沿って30分、1人ずつしか渡れない古いつり橋を2回渡ると、早川発電所吸水所に出る。その近くに付けられた最後の吊り橋を渡り、紅葉樹林帯の中を少しづつ高度を上げながら歩いていった。大コモリ沢で休憩。沢の水で手を洗う。気持ちよい。なだらかな広葉樹の森が現れたりして思ったより急な上りではなく、ひとまず、安心。

30分休む。そろそろきつくなつて来たなと思ったら、大門沢小屋の赤い屋根が目に飛び込んできた。10：33に着いてしまった。この日はここで宿泊。2000円余分に払って、がたがたの小さな個室だが、ゆっくり眠れた。



ヤマジノホトトギス

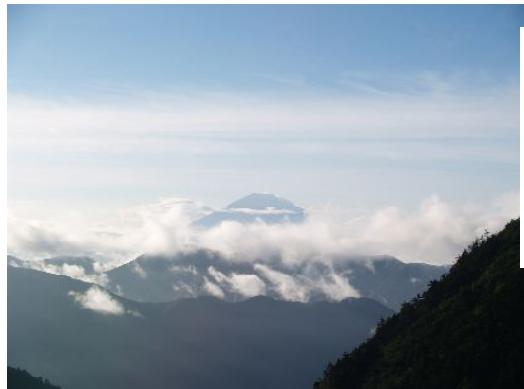


(8/19)

大門沢（5：10）—下降点（9：33）—農鳥岳（10：55）—西農鳥岳（12：00）  
—農鳥小屋—三国平—熊の平小屋（15：55）

大門沢小屋を5：10に出発。1時間ほど歩き、沢のところで、朝食をとる。来た道を振り返ると、富士山が顔を出していた。食事をして後からの歩きが大変だった。傾斜がだんだんきつくなってきた。ヤマジノホトトギス、トリカブト、セリバシオガマなどの慰めも

利かない。ただ、ひたすら足を前にだし、一步一歩高度をかせぐ。お花畠があらわれるが、書き留める余裕もない。それでも、下降点には、9：33に到着。



「下降点にて」

登りがたたり、この日の歩きは、稜線歩きで楽なはずだが、大変つかれて、歩みは鈍くなる。

農鳥岳には10：55に到着。西農鳥の山頂には4人ほどの登山者のみ。西農鳥から、小屋まで30分のところを50分もかけて着く。情けない。ここで、何か、食事を頼む定

だったのだが、何もやっていないということで、りんごを食べる。三国平へは巻き道を選ぶ。農鳥沢、のちょっとの登りが、しんどくて、休み休み登る。一事が万事このような歩きを熊の平まで引きずった。雪渓の伏流水が一すじ。のどに流し込む。

冷たくて甘い。生き返る。若者7～8人が三国沢上流の水場で休んでいた。何でも、大井川の源流の、最初の一滴を探しているらしい。

すぐ、つきそうでなかなか着かない三国平。のんびり休むまもなく熊の平へ急ぐ。お花畠にわくわくして下りていったが、目に飛び込んできたのは一面黄色の花「マルバダケブキ」のみであった。他の花々

はどこへいった？

(8/20)

熊野平（5：00）—三峯岳（朝食6：58）—間ノ岳（8：15）—中白根山—

北岳山荘（10：06）—八本歯のコル 11：55（大樺沢コース）—二俣（13：30）

—広河原（15：33）

間ノ岳の山頂はなだらかで、広い。ツアーディングでたくさんの人。中白根山を過ぎたところで、雷鳥の親子ずれ2組に出会う。近くまで行つても逃げない。1組は砂浴びをしていました。前、来た時もここで雷鳥に出会った。いつまでも、この地で繁殖して欲しい。



八本歯のコルへの巻き道を行く。途中、花の咲き終わったキタダケソウの株を見つける。分岐まではわりと長く、50分、そこから、コルまでは30分かかった。登ってくる人が多く、道をよけた回数は計り知れない。八本歯のコルから、二俣までが非常に長く感じた。休憩なしで1時間35分かかった。地図上のコースタイムは1時間となっていた。広河原までは、なんと2時間5分。休憩込みの時間だが、やはりかかりすぎているようだ。しかし、どんなにおそくても、足を一步前に出せば必ず目的地に着くのがうれしい。

広河原から、芦安の駐車場行きのバスにのって、温泉宿に入る。奈良田温泉の「大家」と同じくらいの金額で、食事も部屋も良かった。温泉の質は単純温泉で、奈良田が勝る。

生ビールで乾杯をして山行を終える。